

安全な物理療法機器の使用のために、再点検しましょう！

1. 電源プラグ周囲の安全を確保しましょう。

電源プラグ周囲にゴミや埃等が蓄積して、湿気、水分が付加されると、トラッキング現象を引き起こすことがあります。電源プラグ周囲にゴミや埃等の蓄積が無いように掃除しましょう。また、電源プラグは確実に差し込み、根元部分が浮き上がらないようにしましょう。

2. 接続を確保しましょう。

医療機器として使用しています物理療法機器は、日本工業規格（JIS T0601-1）の適用によりほとんどの機器が3Pコンセントを使用しています。3Pコンセントの機器は、延長コードなどは使用せず、壁面のコンセント等に直接つなぐようにしましょう。

電源プラグにぐらつきがある場合は、プラグ、コンセント両方の確認を行って下さい。接続が不完全な場合、異常発熱を発生する可能性があります。（接続のぐらつきが解消できない場合は、専門家の指示を仰いで下さい。）

また、2P変換プラグ、延長コードを使用した場合には、各プラグ、コンセント間の接続が不安定になり、次のような状態になることがあります。電源プラグは直接つなぐようにしましょう。



（写真提供：日高正巳）

3. 電源ケーブルの安全を確保しましょう。

電源プラグの抜き差しは、コードを引っ張っておこなわず、電源プラグを持って行いましょう。

電源ケーブルの発熱量が大きくなりますので、変換プラグを使用すること、電源ケーブルを束ねること、延長ケーブルを使用すること、タコ足配線をする事など、電源ケーブルに過度の負担がかかることをやめましょう。

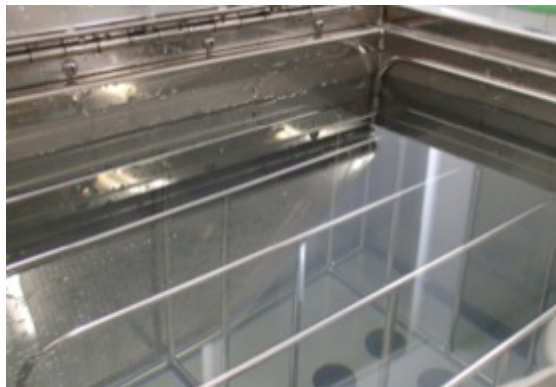
また、電源ケーブルの断線を防ぐために、過度に折り曲げたり、長時間踏んだり、重量物を通過させたりしないようにしましょう。

4. 物理療法機器は日常点検、定期点検を行いましょう。

1) ホットパック加温器の湯量を確認しましょう。

過少な場合：ホットパックが浸らない状態や空だき状態になる可能性があります。

過剰な場合：筐体上部の鉄板折り返し部分より、機器内部へお湯が漏れ出し、水が基板にかかると漏電の可能性があります。

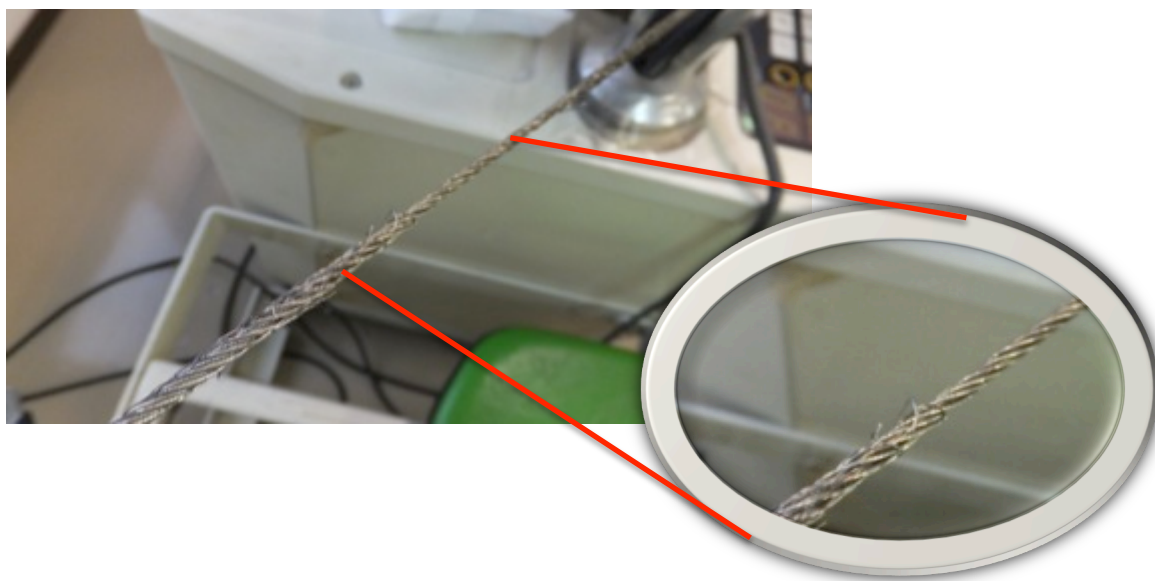


(写真提供：日高正巳)

2) 牽引機のワイヤーの劣化を確認しましょう。

牽引機を長期間使用していると、少しずつですが、ワイヤーが劣化してきます。

早めの交換で、患者さんに安心して治療を受けて頂きましょう。



(写真提供：日高正巳)

※ 物理療法機器安全点検のポイント※

1. 電源プラグ周辺をきれいにしましょう。
2. 電源プラグの接続は確実にしましょう。
3. 電源ケーブルは、束ねない、踏まない、延ばさないようにしましょう。
4. 物理療法機器は、始業時点検、終業時点検、定期点検をしましょう。